

1976年

当協会は創立二十周年を迎え、初の文化界の翼・百三十四名の「日本書道家友好訪中団」、空前の内容を持つ「中国古代青銅器展」や「魯迅展」の開催など、多くの記念行事を行なった。この年、中国では一月八日に周恩来総理、七月六日に朱徳全人代委員長、九月九日に毛沢東主席と、革命の第一世代が相次いで逝去。七月には死者二十四万人という唐山大地震もあり、十月には「四人組」逮捕を経



当協会創立二十周年を記念し中国人民対外友好協会代表団が来日。団長の王炳南会長(右一)、李希凡副団長(右二)、張連文氏(左一)を迎える中島健蔵理事長

——一九七六年三月二十日 東京 中島理事長宅

て華国鋒氏が党主席に就任、といった歴史を画す激動の年だった。日本でもロッキード事件の発覚、三木首相の退



日本音楽家代表団が訪中。大同での歓迎宴で日本の歌を披露する(右から)田中信昭、小泉文夫、中村八大、團伊玖磨団長、武満徹、丹羽正明、松村禎三の諸氏

——一九七六年四月十三日

任、福田内閣成立など政変の年だった。

〈七六年の主な交流〉

◎1月 中国マラソン代表団(陳方团长)来日。

◎2月 周恩来総理国民追悼会(東京・日比谷公会堂)。

◎3月 初の文化界の翼「日本書道家日中友好の翼訪中団」一行百三十四名訪中。一行は、团长・飯島春敬、副团长兼秘書長・白土吾夫、副团长・梅舒適、参与・飯島敬芳、宇留野清華、種谷扇舟、安原皇雲、副秘書長・田中凍川健、下松洋子、班長・稲村雲洞、梅原清山、古川悟、尾崎邑鵬、立石光司、黒野清宇、駒井鶯静、副班長・金子卓義、飯島太久磨、西奥鳴琴、香川倫子、小浜大明、大衆華雪、長揚石、団員・大井錦亭、中原茅秋、前田次郎、石川錦京、石橋鯉城、玉村霽山、成瀬映山、浅田春莊、小山やす子、川越敬楓、小野里観山、小島碧雲、高木桑風、竹石古谿、中林露風、大野篁軒、種村山童、長井蒼之、新井光風、山根溪石、恩地春洋、松原秀圭、辻元大雲、金津大潮、加藤大碩、北見雨洋、吉田成堂、高橋静豪、榊原春岱、中村雲龍、大平匡昭、渡辺秀華、野崎嶽南、中尾一艸、林竹聲、田中桜秀、藤岡都選、初見一雄、林拓翠、高木大宇、渡辺寒鷗、赤井清美、飯島太千雄、安藤梨影らの諸氏。

◎4月 日本音楽家代表団(團伊玖磨团长、伊藤京子、小泉文夫、田中信昭、松村禎三、武満徹、中村八大、丹羽正明、佐藤純子の諸氏)訪中。日本文化界代表団(藤堂明保团长、東山魁夷、東山すみ、岩波雄二郎、前野直彬、杉本苑子、野村万作、木村美智子の諸氏)訪中。

◎5月 中国上海京劇団(向旭团长、孟波副团长兼秘書長)一行百三十名来日、革命現代京劇「智取威虎山」など各地で公演。

◎6月 日本科学技術代表団(近藤次郎团长、三本木貢治、萩原義一、田中脩二郎、米田幸夫、高井康雄、新関宏夫、渡辺宏、石井治、中沢幸雄の諸氏)訪中、当協会と日中経済協会の共同派遣。「訪中美術家代表団七人による『中国を描く』新作展」(東京・伊勢丹新宿店)開幕、当協会と読売新聞社の主催。圓城寺次郎、白土吾夫らの諸氏が新疆ウイグル自治区訪問。

◎7月 「現代中国書道展」(東京都美術館で開幕、当協会、全日本書道連盟、毎日新聞社主催。日中野球交流技術代表団(別當薫团长、山田潔、大友工、

金花、汪愛芝、張連文、呉心健、張和平、王慶英の諸氏)来日。当協会創立二十周年・日本経済新聞社創立百周年を記念し、東京国立博物館で「中華人民共和國古代青銅器展」開催、開幕式に三笠宮御夫妻、三木武夫首相、同展中国代表団(王治秋团长)らが出席。同展はその後、京都国立博物館で開催。日本名古屋電気工業高等学校吹奏楽団(後藤淳团长) 訪中演奏会。

◎4月 日本音楽家代表団(團伊玖磨团长、伊藤京子、小泉文夫、田中信昭、松村禎三、武満徹、中村八大、丹羽正明、佐藤純子の諸氏)訪中。日本文化界代表団(藤堂明保团长、東山魁夷、東山すみ、岩波雄二郎、前野直彬、杉本苑子、野村万作、木村美智子の諸氏)訪中。

◎5月 中国上海京劇団(向旭团长、孟波副团长兼秘書長)一行百三十名来日、革命現代京劇「智取威虎山」など各地で公演。

◎6月 日本科学技術代表団(近藤次郎团长、三本木貢治、萩原義一、田中脩二郎、米田幸夫、高井康雄、新関宏夫、渡辺宏、石井治、中沢幸雄の諸氏)訪中、当協会と日中経済協会の共同派遣。「訪中美術家代表団七人による『中国を描く』新作展」(東京・伊勢丹新宿店)開幕、当協会と読売新聞社の主催。圓城寺次郎、白土吾夫らの諸氏が新疆ウイグル自治区訪問。

◎7月 「現代中国書道展」(東京都美術館で開幕、当協会、全日本書道連盟、毎日新聞社主催。日中野球交流技術代表団(別當薫团长、山田潔、大友工、

炳培秘書長、関山月、柳緒緒、瞿維、

表団(王炳南团长、李希凡副团长、韓

当協会創立二十周年記念レセプション

に出席のため中国人民対外友好協会代

表団(王炳南团长、李希凡副团长、韓

中国古代青銅器展を開催 当協会創立二十周年、日本経済新聞社創立百周年を記念して開かれたもので、内容、量ともに史上空前の青銅器展となった。開幕式でテープカットを行なう三笠宮妃殿下(中央)、(右から)三笠宮殿下、三木武夫首相、永井道雄文部大臣、王治秋中国国家文物局局长、王炳南中国人民对外友好協会会長。(左から)中島健蔵理事長、圓城寺次郎日経新聞社会長

一九七六年三月二十九日 東京国立博物館



魯迅展を開催 当協会、日本経済新聞社、西武美術館などの主催で仙台はじめ五都市で開かれた。神戸展であいさつを述べる藤野恒三郎常任理事(藤野巖九郎先生の甥)。左は圓城寺次郎日経新聞社会長 —1977年1月14日

鈴木陽一、大橋勲ら諸氏) 訪中。
 ◎8月 法政大学野球選手団(中村哲団長訪中。日本女子バスケットボール選手団(鈴木正三団長)訪中。
 ◎9月 日本バドミントン選手団(上原正土団長) 訪中。
 ◎10月 毛沢東主席国民追悼会(東京・日比谷公会堂)。交流計画協議のため白土吾夫、佐藤純子両氏が訪中。「中



日本書道家日中友好の翼訪中団百三十四名が訪中 両国の書道家が見守る中、揮毫を終えた飯島春敬団長(手前右三)。趙樸初、梅舒適、劉炳森ら諸氏の顔も見える —1976年3月3日 北京飯店

華人民共和国魯迅展」仙台市博物館で開幕、当協会、日本経済新聞社、仙台市、河北新報社主催、開幕式に同展代表団(朱永嘉団長、周海嬰顧問、章貴、余秋雨らの諸氏) が出席。同展はその後、東京、名古屋、神戸、広島でも開催。日本美術家友好訪中団(宮川寅雄団長、末田利一、久地岡樺雄、金重素山、前田泰次、嶺山順吉、中島洋一、中村忠教、森田曠平、吉岡庸治、福井良之助、上原和、永井信一、鈴木治、小松崎邦雄、衛藤駿、瀬津巖、金重懐らの諸氏) 訪中。
 ◎11月 日本作家代表团(井上靖団長、井上ふみ夫人、白土吾夫秘書長、巖谷大四、伊藤桂一、清岡卓行、辻邦生、大岡信、秦恒平、秘書・佐藤純子の諸

氏) 訪中。
 ◎12月 日本北海道文化界代表团、高倉新一郎北海道大学学長を団長に、高倉とき夫人、更科源蔵(詩人)、山岡三秋(陶芸家)、安倍三史道立衛生研究所所長、国松登(画家、山川力北海道新聞社顧問、増淵法之北海道大学教授、米村哲英網走市立郷土博物館館長らの諸氏訪中。

「悼念恩来战友 小超哀賦」
 北京医院の一室に安置された周總理の遺体に捧げられた小さな花束のリボンに書かれた十の文字である。「小超」とは周總理が呼んでいた鄧穎超夫人の愛称。革命と建国、苦難の道を共に戦った「恩来战友」への夫人の限りなき哀惜、夫妻の質素で謙虚な日常の風姿が偲ばれて涙を誘った。

一月十一日、厳寒の長安街を西に向かう葬送の車列を見送ろうと、人々は悲しみをこらえて立ちつくした。
 十二月七日、五日前に全人代常務委副委員長に就任した鄧穎超夫人は、人民大会堂で井上靖団長ら日本作家代表团と会見した。外交初舞台であった。周總理の思い出を語り合うその会見は二時間二十分に及んだ。別れるとき、「恩来同志のことをこれほどまでに思ったださる皆様に、心から感謝します」と言ったださるのべた夫人の手は優しく、両手を重ねるその握手を、詩人清岡卓行氏は「芸術的な握手」(文藝春秋刊、一九七八年読売文学賞受賞)と呼んだ。

(九十九)